NIE実践報告

1．タイトル：新聞投書に挑戦Ⅱ

2．学校名

和歌山県和歌山大学教育学部附属小学校

3．実践者名（代表者名）

須佐宏

4．学年

第6学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語　37人

6．単元（本時の学習課題）名

新聞投書に挑戦

7．目標(狙い)

社会の一員として、伝えたいテーマを明確に持ち、自分の考えが読み手に伝わるような意見文を書く。

8．評価の視点

友達の意見文について意見交流することを通して自己の意見文を振り返り、初めに書いた自分の意見文を推敲して伝えたいテーマに沿って意見文を書くことが出来たか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

全11時間を配当。「書くこと」の単元であるが、意見文を読み、それについて話し合うことに全学習時間の半分を費やした。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

第1次　テーマを決めて意見文を書いてみよう。【2】・新聞記事から学ぼう。（投書欄について知る）（1）・新聞記事を参考にテーマを決めて意見文を書こう。（1）　第２次　投書文から学ぼう。【6】・投書文と対話しよう。（ひとり読み）（2/3）・投書文について話し合おう。（小グループ）（2/3）・投書文について話し合おう。（全体）（1）・友達の意見文と対話しよう。（ひとり読み）（2/3）・友達の意見文について話し合おう。（小グループ）（1）・友達の意見文について話し合おう。（全体）（2）第3次　意見文を仕上げよう。【3】・自分の意見文と対話しよう。（ひとり読み）（2/3）・グループでアドバイスしよう。（小グループ）（1）・意見文を仕上げよう。（4/3）(・新聞社へ投書しよう。)
(留意点)第1次では、新聞に親しむことから導入。これまで知らなかった投書欄に目を向けさせ、現在自分自身が考えられることをもとに意見文を書かせる。第2次では、実際に新聞に掲載された「たばこ自販機未成年者には害」という投書文を教材文としてとりあげ、この投書文のよいと思うところを各自が考えてからみんなで話し合わせる。さらに、学級の友達が書いた3人の意見文を教材文として、それぞれの良さを見つけることを通して自身の書いた意見文に立ち返らせ、自分の書いた意見文として完成させていく。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

自分の作文が新聞に載るかもしれないという期待感を持って学習を進めることができた。教材として扱った4つの意見文のよいと思うところを自分なりに見つけ、グループや全体で共有しながら学習を進めることが出来た。結果として学級から3名の意見文が新聞の投書欄に掲載された。

12．成果と課題

単元全体を振り返ってみると自分たちの学級から3人もの作文が新聞に掲載されたことで、友達をたたえると共に、新聞を身近なものとしてとらることできた。また、説得力のある文にするために、自分たちの考えを出し合い、対話する中で、よりよいものを導き出すことができ、自己の成長を確かめることができた。ただ、作文に至るまでの取材の時間を十分確保しなかったため、ひとりよがりな文章になってしまったところもある。今後も、身近な情報源である新聞をうまく活用して、社会の出来事や真実に目を向けさせ、より実践的に書く機会をあたえていきたい。